

「県民運動『佐賀から日本のやさしさを』～広げよう、ユニバーサルデザイン～」事業

「すべての人のためのデザイン」として普及・浸透が望まれる ユニバーサルデザインに県民が一体となって取り組む

「ユニバーサルデザイン」とは、さまざまな人が利用しやすいように最初から考えてデザインすることやそうした考えによって作られた製品、建物、空間、環境などを指す。人間の多様性を前提に、違いを超えて、できる限り多くの人が使いやすいものを普及させたい。佐賀県では、やさしさの原点ともいえるこの活動に積極的に取り組んでいる。

佐賀県が県民運動として取り組んでいる ユニバーサルデザインの推進・普及活動

佐賀県では、年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もが自分らしく安全に暮らせる町、安心して子どもを産み育てることができる社会の実現に向け、町、モノ、ソフト、意識を含めた総合的なユニバーサルデザインを推進するという目的のもと、2006年に佐賀県ユニバーサルデザイン推進指針を策定し、さらに翌年には佐賀県ユニバーサルデザイン実施計画を定めて、さまざまな分野で具体的な取り組みを始めた。

また、2010年には、その取り組みを全国に向けて発信すると共に、ユニバーサルデザインに対する理解の一層の

推進を目的に、第5回ユニバーサルデザイン全国大会を開催。さらにこうした取り組みを継続させることを目的に、2011年度から3年間にわたる県民運動としてユニバーサルデザインの推進・普及に取り組んでいる。

「県民運動には県内の企業を含めて約30団体が参加し、県民協働で、官民一体となった取り組みを進めています。主な具体例をあげると、利用証交付者が身障者用駐車場の専用に利用できる『パーキングパーミット制度』、ベビーベッド・腰掛け便座・オストメイトなどを備えた『みんなのトイレ』、すべての人が使いやすいように作られた製品の普及と需要拡大を目指す『ユニバーサルデザイン推奨品制度』、優れたユニバーサルデザインを表彰する『ユニバーサルデザイン大賞』、県内のユニバーサルデザイン施設をサイトで紹介する『さがUDマップ』などがあります。こうした取り組みにより、徐々にではありますが、県民にユニバーサルデザインというものが浸透してきたような気がします」

この県民運動の推進委員会で事務局機能を担う佐賀新聞社の市原康史さんと増田好彦さんは、そう話す。



ユニバーサルデザインについて多面的に紹介する佐賀新聞の紙面



利用証交付者が身障者用駐車場を専用に利用できる「パーキングパーミット制度」のステッカー



県内のユニバーサルデザイン施設を地図上や条件、キーワードから探せるサイト「さがUDマップ」

助成金を活用して実現することができた 国際会議への出展や巡回サービスの充実

事務局機能に加え、佐賀新聞社では発行する「佐賀新聞」の紙面を活用し、ユニバーサルデザインの概念や取り組みを取材・記事化して広く発信するほか、そのネットワーク力を生かして、県内で行われるユニバーサルデザインフェスタなどのイベントでユニバーサルデザイン関連グッズを紹介する巡回サービスや佐賀新聞ホームページ内に専用サイトを開設して、双方向型の情報発信などを行っている。

「紙面特集では初年度は月2回、その後は月1回のペースでユニバーサルデザインについて多面的に紹介する記事を掲載しています。巡回サービスでは協賛企業と協力して、できるだけ多くの地域やイベントを回っています。媒体を持っている強みを生かした情報発信はもちろですが、自分たちも自らイベントなどの現場に出ていくことで、少しでも多くの県民がユニバーサルデザインに触れる、体験するといった機会を提供できればと思って活動しています」と、市原さん。単なる事務局というよりも、この運動に実働部隊として積極的に関わっているという頼もしさや力強さを感じた。

今回の助成で実現したものとして、昨年10月に福岡市で開催された国際ユニバーサルデザイン会議への出展や巡回サービスの充実があげられる。「国際ユニバーサルデザイン会議では、佐賀県のブース内にユニバーサルデザイン推奨品やさまざまな取り組みを紹介する情報ツールなどを展示することができ、来場した方々にかかなり興味を

担当者より



**思いやりや優しさが
広がることを期待。**
県民運動
「佐賀から日本のやさしさを」
推進委員会事務局
佐賀新聞社・営業局
市原康史さん(右)
増田好彦さん(左)

ユニバーサルデザインの普及・啓蒙は地道な活動にならざるをえない面がありますが、情報発信のための紙面作りを含め、さらにそこを飛び越えて、町や地域でのPRにも積極的に取り組んでいます。AJOSCの助成はそうした活動の原動力にもなりました。今回は本当にありがとうございました。

持っていただきました。また、今年3月に佐賀市内のショッピングセンターで行われた佐賀県ユニバーサルデザインフェスタも家族連れの方々を中心に大好評でした。巡回サービスは前年度の倍以上の8回、実施することができました」と、増田さん。

「ユニバーサルデザイン教育の推進もあり、小中学生にはかなり認知されるようになりましたが、年輩の方々にはまだまだ知られていない面もあり、普及の必要性を感じています。こうした活動は障がい者を対象にしたものになりがちですが、そうした方々も含め、みんなが幸福になることを目指して、私たちはこの運動に取り組んでいます」と、市原さん。思いやりや優しさにあふれた社会は、こうした活動から生まれてくるに違いない。



平成24年度の佐賀県ユニバーサルデザイン推奨品のひとつで、表面の凹凸により歩行者が滑りやすい構造となっている「ハンドホール」

※1: 地中に埋設する電話線などの修理のために、手だけ入れて作業する孔。